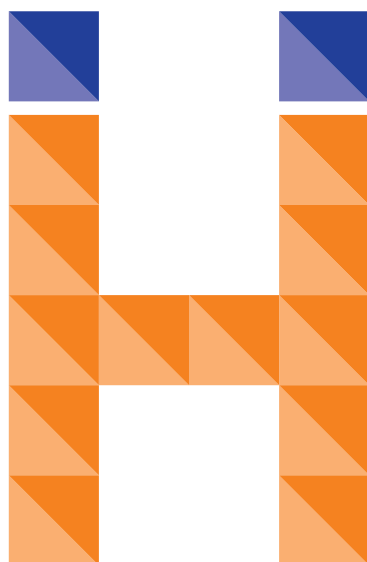
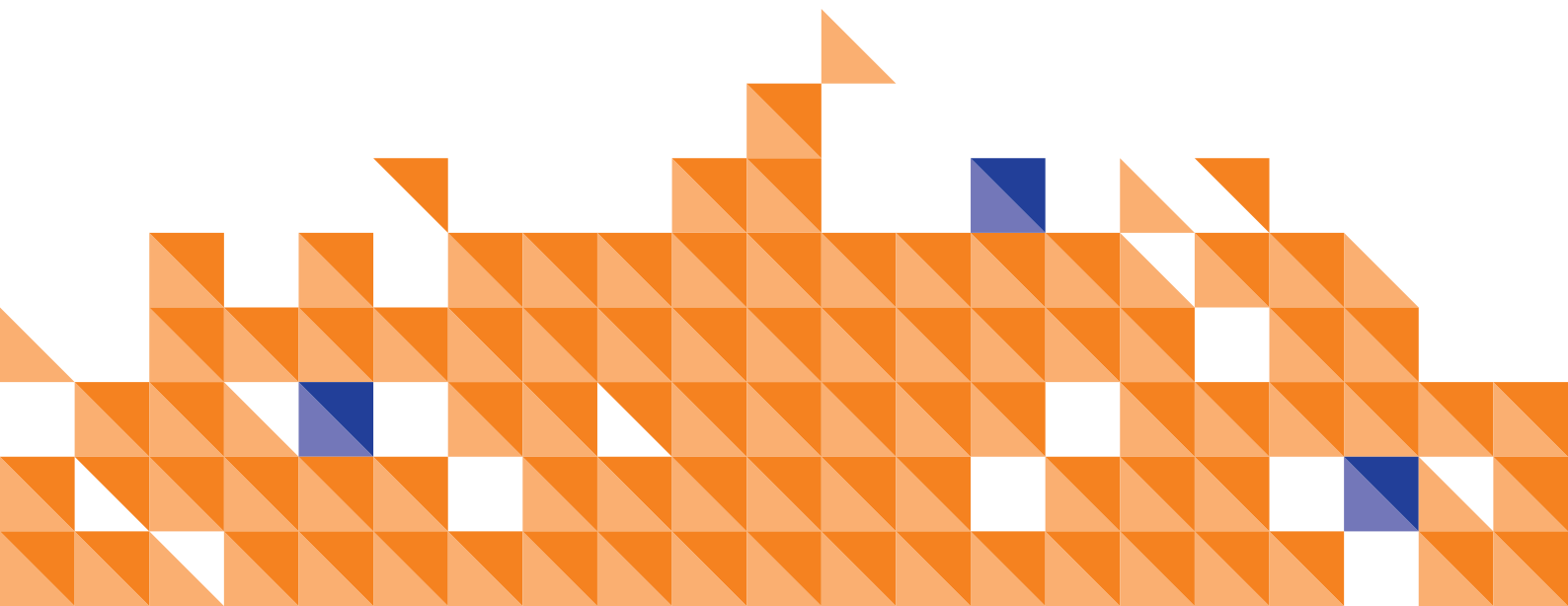


法政大学大学院経営学研究科
法政ビジネススクール2025



HOSEI BUSINESS SCHOOL

Graduate School of Business Administration



学んで変わる・学んで変える



法政大学大学院
経営学研究科

研究科長

西川真規子

ビジネススクールといえば、MBA取得を目指す人のための教育機関との認識をお持ちの方が多くはないでしょうか。実際、法政大学大学院経営学研究科、法政ビジネススクールは、1992年の設立当初からこれまでに1000名近くのMBAホルダーを輩出してきました。そして、これらの卒業生は経済界に限らず行政、医療、教育機関など多方面で活躍されています。

ところで、私が法政ビジネススクールで教鞭をとり始めた今から20年ほど前に、MBA教育の本場アメリカで興味深いタイトルの本—Managers not MBAs—が出版されました(Mintzberg, 2004)。著者は異彩の経営学者ミンツバーグで、この本を通じて従来のマネジメント教育に警笛を鳴らし、ビジネススクールが本来目指すべき方向性を示しました。

この本でミンツバーグは、経営とは、洞察をもたらすアートと、分析に必要なサイエンス、そして経験に基づくクラフトの3つをうまくブレンドした実践である、と述べています。アートは具体的な事象を題材としつつも、帰納法を用いて新しいビジョンを創り出します。サイエンスは体系的分析や評価を通じて、一般(抽象)概念の実践への拡張を目指します。そして、クラフトは具体と抽象の間を行き来しつつ、行為や経験を通じて学びをもたらします。サイエンス重視で分析を重んじるアカデミックな経営教育や、戦略重視で経営のプロ養成を目指す実用的なビジネススクールがひしめく中、ミンツバーグのアート、サイエンス、クラフトを柔軟にバランスよく取り入れようとする統合的なアプローチは、当時に限らず現代にこそ輝きを増しているように思われます。

当研究科では、統合的にマネジメントを学ぶ場が提供されています。社会人を対象とする夜間の修士課程は、高度職業人の養成を目指し設立した1992年当初から、長年にわたる教員と院生とのやり取りを通じて効果的な教育方法を模索し続け、学びを促進するための経験知を積み上げつつ現在に至っています。研究の面白さに目覚め、働きながら博士号取得を目指す院生も多数所属しています。博士課程での研究は孤独な作業となりがちですが、当研究科では正・副教官の複数指導体制の下、研究科全体での研究発表会が毎年2回開催されるなど、研究促進のための支援も整っています。全日制の昼間修士課程では、設立当初から研究者養成を主眼とし、今では多くの留学生を受け入れ、経営学の専門知識や学術的アプローチへの理解を深める場となっています。

当研究科には学部で経営学以外を専攻していた院生も少なからず所属しています。教員はその多岐にわたる専門領域と学部教育での経験を活かした丁寧な少人数制の講義を行い、院生が専門領域での理論や概念を深く学ぶことを促進しています。このような学びは、現場での体験と結びつくことで一層効果を増しますが、現場との統合的視点を得る上で、経営の最前線に立つゲストスピーカーを招いたワークショップでの活発な議論は大変好評です。さらに個別演習では、自律的学習を促進する対話型の英国式チュートリアルシステムを取り入れ、院生全員が修士論文やリサーチペーパーの完成に向け研究に邁進しています。

皆さんの中には、職場での実践に直結するテクニックを早く習得したいので、悠長に研究に取り組んでいる暇などないと思っている方はおられませんか。確かに、社会人の院生は多忙を極めます。しかし、研究こそが、理論と現実を結びつけ、これまでとは異なる現実の記述(意味付け)を可能とし、新たな視座を得る上で最も有効だと言えます。最初は皆これまでの見方に囚われ、研究テーマや研究のための問いの立て方に四苦八苦します。しかし、自らも研究者である教員との対話を通じて、探求するに値する問いの立て方(アート)やその問いに対する結論の見出し方(サイエンス)について学習が進みます。このような研究アプローチの修得は、日々の実践を分析的視点で捉え(サイエンス)、異なる意味を見出し(アート)、改善をもたらすこと(クラフト)に大いに役立つはずで

組織学習を専門とするセンゲはその著書で、「変化こそ学習、学習こそ変化」と喝破しました(Senge, 2006, *The Fifth Discipline: The Art & Practice of the Learning Organization*)。現在皆さんが経験している目まぐるしい環境変化への適応も、学習を通じて自らが変わることとなり、自らが学習を通じて変わり、周りに有効に働きかけることができるようになれば周りも変わり、その結果、共により良い環境を創り出していくことも可能となるのではないのでしょうか。当研究科では、アート、サイエンス、クラフト全てを刺激する学びの場が提供されています。このような学びの場に参加したい方を教員一同歓迎いたします。

コースのご紹介

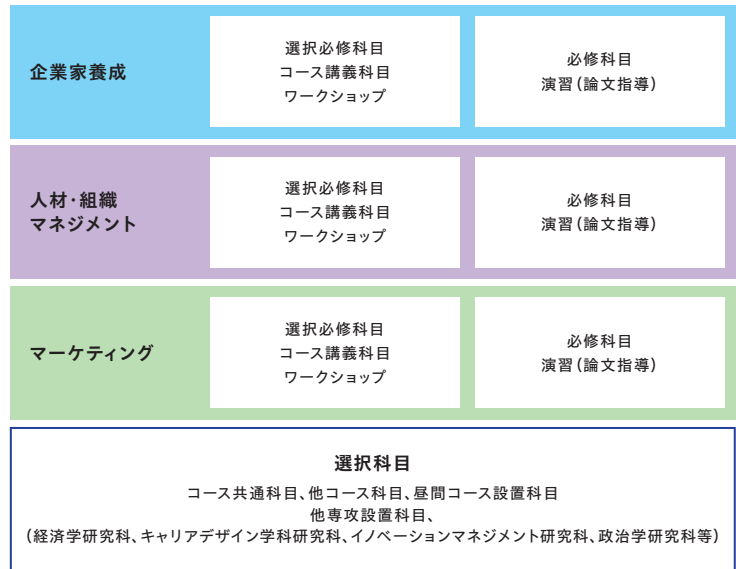
経営学研究科には、昼間と夜間の2つの課程から構成される修士課程と、博士後期課程が設置され、多様なバックグラウンドを持つ在籍者の特性に応じた幅広いカリキュラムが提供されています。

夜間修士課程 夜間3コース



企業やその他団体等で高度な経営課題に応えられる経営管理職・専門職等の育成

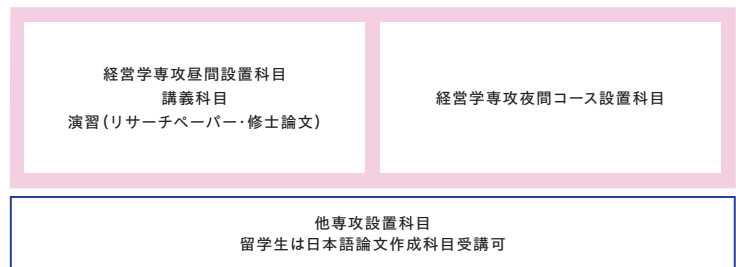
夜間修士課程では平日の夜間と土曜日に授業が実施されています。企業家養成、人材・組織マネジメント、マーケティングの3コースにおいて、それぞれを専門領域とする教員によるコース独自の講義科目とワークショップが提供され、2年次以降の演習ではコース専属教員の指導の下で修士論文を作成します。選択科目としては、3コース全ての院生を対象としたコース共通科目や、他コース提供科目の他、昼間修士課程の科目や、他専攻(キャリアデザイン学研究所、イノベーションマネジメント研究所、経済学研究所、政治学研究所等)が開講する科目も受講できます。このように、夜間修士課程では所属コースに応じた専門知識を深めることができるばかりか、個々の院生の必要性や関心に合わせて多様な科目を幅広く学ぶことが可能となっています。



昼間修士課程

優れた成果を上げられる 研究・教育職、国際職業人等の育成

昼間コースは海外の大学を卒業した学生にも広く門戸を開き、留学生も多く在籍しています。経営学専攻昼間修士課程に設置の講義科目と指導教員の下でリサーチペーパーや修士論文を作成する2年次以降の演習に加え、夜間コース設置科目や他専攻設置科目も修了要件に含めることができます。



博士後期課程

豊かな学識を備えた 独創性に富む専門研究者の育成

博士後期課程では、指導教員による論文指導(演習)の他、博士コースワークショップが提供されています。指導教員と副指導教員の集団指導体制の下で3段階のステップをクリアしていくことにより博士論文執筆を着実に前に進めていくことが可能となっています。



※修士課程、他専攻設置科目の履修可



近能 善範 教授

経営のトップやプロフェッショナルに ふさわしい洞察力を鍛える

企業家養成コースは1992年の開講以来、創業や承継、昇進により経営者・経営幹部になられた修了生を数多く輩出してきました。本コースでは、創業や経営層を志す人はもちろん、企業内で新事業や新たな取り組みに挑戦しようとする人、事業の承継を志す人、企業家の支援に携わる人、社会問題の解決に取り組む人など、幅広い「企業家」を想定し、その洞察力を鍛えられるよう、お手伝いをしていきます。

企業家が直面する状況は常に新しく、将来は常に不確定です。その中で的確な決断を下すためには、表面的・一時的な現象に惑わされてしまうことなく、本質を鋭く見通す洞察力が欠かせません。企業家養成コースでは、こうした能力を養うために、多様な学びの機会を設けています。

例えば「ワークショップ」では、第一線で活躍している企業家をゲストとしてお招きし、企業や事業を起こした経緯・動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上の課題や対応策などについて、ご本人にお話いただくと共に、質疑応答や対話を通じて議論を深めていきます。こうした双方向的の授業を通じて、参加者は企業家の置かれた立場を想像し、追体験しながら、企業経営の本質を考えることとなります。

また当コースでは、企業家活動、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論、企業家史、経営史など、企業家の洞察力の涵養に欠かせない科目が、数多く用意されています。その他に、マーケティング論、消費者行動論、人的資源管理論、経営学基礎、会計学基礎、国際経営論など、他のコースやコース共通の多様な科目を履修することも可能です。

2年次には、担当教員の丁寧な指導を受けながら、修士論文を執筆していきます。一見遠回りに見えても、修士論文を自分自身で執筆する経験を通して、これまでの実務経験や大学院で学んだ知識が、本当に自分の血となり肉となっていきます。さらには、企業家として必須の論理力・構想力も飛躍的に高まることとなります。

こうした多様な学びを通じて、自らの経験を棚卸・言語化・体系化し、経営者・企業家として企業や事業の全体的なあり方を構想し変革を実現していくための土台となる思考枠組みを培っていきます。

本コースには、ビジネスの現場で強い問題意識を持つ多様な経歴の社会人が集まってきます。そのため、教員を交えて、あるいは学生同士で、多様なトピックについて多様な観点から議論していくことが可能です。こうして育まれていく、修了生も含めた強固なネットワークは、大学院修了後も大切な財産となります。本コースで、企業家として必須な洞察力とネットワークを育みながら、経営トップや経営のプロフェッショナルへの道を目指してみませんか。

教員紹介

教員名	研究テーマ
稲垣 京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究
金 容度 教授	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関する研究
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション
二階堂 行宣 教授	日本経営史・日本経済史
韓 載香 教授	日本産業史、日本におけるエスニックマイノリティ企業史研究
福島 英史 教授	産業発展と事業変革
吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究

主な開講科目

- ▶ 企業家活動
- ▶ 企業家史
- ▶ 経営史
- ▶ 経営戦略論
- ▶ イノベーション・マネジメント概論
- ▶ 企業間関係論
- ▶ 企業家養成演習
- ▶ ワークショップ(企業家養成)

Voice MBA修了生・現役生の声

新しい挑戦で自分を変革できる2年間

私は現在、会社で新規事業開発を行なっています。世の中にイノベティブな製品・サービスを届けることを目標に、HBSでの学びを活かしながら試行錯誤の毎日を過ごしています。かつては「イノベーションは自分にはあまり関係ない」と思っていました。そんな私がHBSで学び、「イノベーション」に挑戦するようになった経緯を紹介します。私はメーカーで10年余り経理業務に携わったあと、2009年に現在の会社へ転職しました。経営企画部門に配属され、中長期経営戦略やM&A、海外を含むグループ経営、新規事業開発に携わってきました。未経験の仕事にやる気と根性で取り組んできましたが、「経営戦略」や「イノベーション」、「新規事業開発」など体系立てた理論の知識が無く、壁にぶつかることがよくありました。そして、伝統的な日本企業でイノベティブな新規事業を起こすことの難しさを感じてきたことが、HBSの門を叩きかけとなりました。HBSの良さは、自分の問題意識から研究テーマを決め、講

林 輝夫 さん(2023年3月修了)
ナブテスコ株式会社



義で先人の研究理論をしっかり学ぶ中で考察し、研究成果を修士論文という形で言語化できるところだと思えます。そして、HBSにはそのための先生方の手厚い指導と、切磋琢磨する学生同士のコミュニケーションが充実していると感じています。HBSの特長であるワークショップでは、講師の経営者から生の経験を聞くことで、学んだ理論を自分の仕事に応用するための多くのヒントを得ました。ゼミでは先生のきめ細やかな指導を受けながら、自分の問題意識に正面から取り組んだ証になる修士論文を書き上げることができました。仕事をしながらの取組で大変な事も沢山ありましたが、家族や学生同士の励ましもあり、楽しく充実した2年間を通して少しは自分を変えることができたと思います。「イノベーションを起こしたい」、「何かを変えたい」と思っている方、ぜひHBSで学んで、行動を起こせる自分にならなってみませんか？



戎谷 梓 准教授

人材と組織の課題を考え、 実践する人のために

人材・組織マネジメントコースは、法政ビジネススクールが創設された1992年、「人的資源管理コース」としてスタートしました。その後「人材開発コース」、そして現在の「人材・組織マネジメントコース」へと名称は変わりましたが、基本的な教育理念は一貫しています。それは、企業等で現実に生じている人材や組織に関する問題を、学術的理論や実証分析の方法を用いて調査・分析することにより、課題解決に資する知見を得て、実践に生かす能力を身につけることです。

本コースの特徴の1つ目は、人事、労働、組織というかなり広範な分野の研究者を専任教員として多く配置していることです。研究テーマが幅広いだけでなく、バックグラウンドとなる学問分野（経営学、社会学、経済学、心理学など）や実証分析の方法（質的調査、量的調査など）も多様です。したがって、院生は人材と組織を考える際に必要なさまざまな理論的知識、思考方法を学び、それらを実践的な課題解決に生かす応用力を身につけることができます。

本コースの特徴の2つ目は、丁寧な修士論文指導です。論文指導は主に個々の院生を受け持つ指導教員が行いますが、院生はいつでも、指導教員以外の教員に研究上のアドバイスやサポートを求めることができます。ほかにも、毎年春季には研究テーマの構想やプロポーザルの発表会、秋季には中間段階の研究報告会を開催しており、コースの全教員と全院生が参加して一日がかりの報告会を行っています。研究の発表者また報告者は、これらの発表会・報告会での発表を通して、指導教員以外の教員からも多面的なコメントを得ることができます。

皆さんは、これまで他者と協業する中で、人材や組織に関わる様々な課題に直面してきたのではないのでしょうか。私たちは、皆さんがこれらの課題を他者に理解できるよう客観的に整理して伝え、課題が生じる原因を解明し、個々の文脈において適切で効果的な解決策を提示できるように、学術的な観点からお手伝いしたいと思っています。これには、先行研

究の探索や論理的思考の伴う深い考察が求められます。現場での実践とは異なる部分があって最初は戸惑うかもしれませんが、私たちはこれまでの修了生たちの経験から、本コースで習得できる学術的アプローチは、皆さんのビジネス場面においても非常に有意義なものになると確信しています。

教員紹介

教員名	研究テーマ
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織と個人の適合
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析、国際比較
佐野 哲 教授	労働市場、経営社会政策
佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用システム
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー
西川 真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活
戎谷 梓 准教授	国際人的資源管理、グローバル人材

主な開講科目

- ▶ 人的資源管理論
- ▶ キャリアマネジメント論
- ▶ 人事制度論
- ▶ 労働市場論
- ▶ 労使コミュニケーション論
- ▶ 経営組織論
- ▶ 組織行動論
- ▶ 経営情報論
- ▶ 国際人事
- ▶ 人材・組織マネジメント演習
- ▶ ワークショップ(人材・組織マネジメント)

Voice MBA修了生・現役生の声

わたしが法政ビジネススクールで手に入れたもの

私は製造業のいわゆる人事畑で社会人経験を積んできました。50歳を迎えるにあたり、考えたいことが2つありました。1つが、私自身のこれまでの人事領域での現場経験をアカデミックな観点から体系的に整理できないかということです。もう1つが、私を含むミドル・シニアの社員が躍進するためのヒントを探求することができないかということです。これらを踏まえHBSへの進学を決め修了した訳ですが、私の2つのニーズは期待以上に満たされたように思います。現場経験の体系的な整理という点では、HBSでは人事、労働、組織など人材と組織を考えるうえで必要な理論的知識が学べる授業が質・量で充実していました。それらの授業の特徴では、学術書や文献のインプット、授業での先生や仲間たちとの議論によるアウトプット、それらを繰り返すことで実践的な知へと体系化できたのではないかと思います。ミドル・シニアの社員の躍進に関する探究では、私の場合、まさに私自身と自身の勤務する会社が直面

久次米 章彦 さん(2023年3月修了)
キリンホールディングス株式会社



する課題を修士論文のテーマ(「役職定年後のシニア社員の職域の実態」)に定め、指導教官とマンツーマン体制でこのテーマに向き合ったといえます。大学院での研究と普通の業務が並行して進んでいき、研究による発見や提言を自社の人事施策に取り入れることもできました。さらに2つのニーズに加え、先生や共に学んだ仲間たちとネットワークができたことも大きな財産です。平日夜間と土曜日に主体的に学びたいとHBSに集う仲間たちとの繋がりは、普通の仕事では得難いものだと思います。修了後、勤務先においてミドル・シニアの躍進を支援する組織の立ち上げを任せられることになりました。HBSで得た先生や仲間たちのネットワークを活用しながら、アカデミックアプローチを現場で実践していくことにワクワクしています。修了生として、HBSでの学びやHBSに集う仲間たちとの出会いの素晴らしさを、一人でも多くの方に味わってほしいと考えています。

マーケティングコース

マーケティングを 深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ち、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」、「マーケティング・サイエンス論」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、自分なりの研究課題を膨らませていきます。このことが、今までにない問題意識を持つ研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらに先輩や卒業生もアドバイスをしてくれます。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのないネットワーク構築にもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイス



長谷川 翔平 准教授

を受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。さらに、卒業後に修士論文を磨いて、マーケティング系の学会発表に臨んだり、博士課程に進んで研究者を目指したりすることも珍しくありません。

皆さんの研究課題は、我々教員にとっても、実務とアカデミックの新たな接点となりえます。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。

教員紹介

教員名	研究テーマ
木村 純子 教授	農産物マーケティング、地理的表示保護制度、地域活性化
竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、消費者行動
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント
西川 英彦 教授	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション
横山 斉理 教授	日本型流通システム、商業まちづくり
長谷川 翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス

主な開講科目

- ▶ マーケティング論
- ▶ 流通システム論
- ▶ 消費者行動論
- ▶ 国際マーケティング論
- ▶ マーケティング・リサーチ論
- ▶ 物流管理論
- ▶ 製品開発論
- ▶ 定性的方法論
- ▶ マーケティング・サイエンス論
- ▶ マーケティング演習
- ▶ サービス・マネジメント論
- ▶ ワorkshop(マーケティング)

Voice MBA修了生・現役生の声

理論と実践の双方を、深く学ぶ2年間

HBSでの2年間、質の高い講師陣に助けられ、アカデミックな学びを得ることができました。マーケティングコースの先生方は、実務経験もありながら研究者としての実績もあり、理論と実践の両面で多くの気づきを与えてくださいました。例えば、授業の前半は教科書や、時には英語の論文を読みながら理論を学びます。そして、授業の後半では、学んだ理論を自社の課題に当てはめて考えたり、グループで議論をしながら理解を深めていきます。授業で学ぶ理論はどれも、時代が変わっても使われ続けている普遍的なものばかり。そのような普遍的な理論を通じて自分の仕事を振り返ると、これまで何となく行ってきた業務の良し悪しがクリアになっていきます。このような感覚は今まで感じたことがなく、とても面白い体験でした。また、修士2年になると、自分が行いたい研究の領域や手法に近い特定の先生お一人と、ほぼマンツーマンのような近さで学びながら、修士論文を執筆していきます。通常の授業レポート

岡田 庄生 さん (2019年修士課程修了・2022年博士課程修了(博士号取得))
株式会社博報堂



とは異なり、アカデミックな論文は学術的な文章の書き方を学ぶ必要があります。何も知らなかった私は、英語の論文をたくさん読んだり、調査票を作って調査を行ったりと、慣れない作業に悪戦苦闘しましたが、指導教官の先生による丁寧な指導で何とか書き上げることができました。さらに、修士修了後、修士論文に加筆して、指導教官の先生との共著論文として論文誌に掲載することもできました。このように、学びが形に残せたことも、私自身にとって良い思い出です。最後に、一緒に学びを共にする仲間存在も忘れられません。マーケティングコースで出会った同期達は、年齢も職種もバラバラながら、学ぶ意欲の高い同志達。今でも折に触れて集まり、当時の思い出や近況などを共有する仲です。私にとって、HBSで過ごした2年間は人生の中でも忘れられない時間です。



平田 英明 教授

これからの時代を担う企業経営と 経営学のプロフェッショナルへ

経営学研究科は、現実の企業経営を題材としながら、組織との中で繰り広げられる人間の営みを研究し、その成果を学ぶことを目的として設立された研究科です。組織や人間の営みは多様であり、単に現象を追うだけでは、現実の世界で日々生じる複雑な現象の洪水に溺れてしまいます。しかし、表面上は異なって見える現象でも、その根源を探求していくと、共通した原理にたどり着くことがしばしばあります。混沌とした現実をより深く理解するには、原理(理論)を知っていることが重要です。理論を学び、何が重要であるかを見極めることによって、現実の理解を深めていくことが可能になります。

本コースが目指しているのは、このような思考のできる人材の育成であり、専門的な経営学の教育を通じて数多くの研究者や高度職業人を養成してきました。そして、これからも教育研究機関・学会等で通用する高度な研究・教育成果を上げることができる研究者・教育者の育成、企業・その他の団体等において高度な経営課題に応えられる経営管理

職、専門職の育成を行っていきます。

本コースは、人材組織、経営史、会計、AI・データサイエンス、マーケティング、国際経営、ファイナンス、企業と経済、戦略・企業家という9つの専門領域について研究できます。このため、広く経営学を学んでいく上で必須となる基本的な内容や共通の方法論を学べる科目群を幅広く用意し、経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べるようになっています。経営学研究科の夜間コースの授業や他専攻の授業も受講することができます。数量的な分析に関する科目も開講しており、総合的に、すなわち定量的・定性的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。講義やディスカッションを通して高度な知識・理論を習得し、さらには、細やかな個別指導のもとで質の高い修士論文等を作成することを目指します。

教員紹介※ ※夜間コース共通科目担当含む

教員名※	研究テーマ
安藤 直紀 教授	企業の国際経営戦略、制度理論の多国籍企業分析への応用
大木 良子 教授	競争政策の経済理論分析
神谷 健司 教授	財務会計基準の研究、学校法人会計基準の研究
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還、ビジネス教育の研究
金 瑠晋 教授	企業の財務行動
児玉 靖司 教授	人工知能、大規模授業配信のビジネスモデル
近藤 大輔 教授	サービス業の原価企画、経営者育成、アメーバ経営
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見
高橋 慎 教授	金融時系列データの統計分析
高橋 美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価

教員名※	研究テーマ
高橋 理香 教授	貿易政策に関する理論および実証研究
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算
入野 健 教授	ネットワークと知識に関する技法、確率的シミュレーションモデル
平田 英明 教授	日本の景気動向、日本の金融システム、期待形成と経済政策
福田 淳児 教授	MCSの設計と組織学習、スタートアップ企業におけるMCSの発展
福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資
山崎 輝 教授	金融テクノロジー、資産価格理論
横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・クラスター
片桐 満 准教授	金融政策の理論分析、コーポレートファイナンス
北田 皓嗣 准教授	サステナブルマネジメント、ESG情報開示、サーキュラーエコノミー

主な開講科目

- | | | | | |
|------------|-------------|---------------|-------------|-----------|
| ▶ 経営学概論 | ▶ マーケティング特論 | ▶ ミクロ経済論 | ▶ 国際経済学 | ▶ 国際人事特論 |
| ▶ 経営管理論 | ▶ 会計学入門 | ▶ マクロ経済論 | ▶ 国際金融論特論 | ▶ 物流管理特論 |
| ▶ 経営管理特論 | ▶ 財務会計論 | ▶ 組織経済学 | ▶ 産業組織論 | ▶ 経営学特殊研究 |
| ▶ 経営組織特論 | ▶ 財務会計特論 | ▶ 金融論 | ▶ 日本経済特論 | ▶ 経営学基礎論 |
| ▶ 人的資源管理特論 | ▶ 経営分析論 | ▶ ファイナンス入門 | ▶ 統計学 | ▶ 経営学演習 |
| ▶ 経営戦略特論 | ▶ 財務諸表分析 | ▶ ポートフォリオ理論入門 | ▶ リサーチ・メソッド | |
| ▶ 国際経営特論 | ▶ 管理会計特論 | ▶ デリバティブ入門 | ▶ 経営情報特論 | |

主な夜間コース共通科目

- | | | | | | |
|---------|--------------|-----------------|----------|--------------|----------|
| ▶ 管理会計論 | ▶ 経営分析 | ▶ インVESTメント理論 | ▶ 経済学基礎 | ▶ e-ビジネス論 | ▶ 地域経済研究 |
| ▶ 財務会計論 | ▶ 租税法 | ▶ コーポレート・ファイナンス | ▶ 日本経済基礎 | ▶ 統計データ解析 | ▶ 経営特殊研究 |
| ▶ 税務会計論 | ▶ 基礎ファイナンス | ▶ 経営学基礎 | ▶ 情報学特論 | ▶ 国際経営論 | |
| ▶ 会計情報論 | ▶ 実証ファイナンス入門 | ▶ 会計学基礎 | ▶ 情報技術特論 | ▶ 外国語経営学特殊講義 | |

MBAセミナー & 個別進学相談会

- ▶ 2024年7月13日(土) [対面開催]
法政大学 市ヶ谷キャンパス
- ▶ 2024年10月12日(土) [オンライン開催]
- ▶ 2024年12月7日(土) [オンライン開催・進学相談会のみ]

MBAセミナーの詳細は、
法政ビジネススクールウェブサイトまで。
<http://hbs.ws.hosei.ac.jp>



入試日程

修士課程夜間

- 〈秋季〉
- ▶ 出願期間 2024年10月16日(水)~10月21日(月)
- ▶ 口述試験 2024年11月24日(日)
- 〈春季〉
- ▶ 出願期間 2025年1月08日(水)~1月13日(月)
- ▶ 口述試験 2025年2月22日(土)

修士課程昼間

- ▶ 出願期間 2024年10月16日(水)~10月21日(月)
- ▶ 第一次試験(筆記) 2024年11月17日(日)
- ▶ 第二次試験(口述) 2024年11月24日(日)

※学内入試(法政大学4年生対象。通信教育部、英語学位プログラムを含む)は
筆記試験はなく成績要件と口述試験による入試を実施。

博士後期課程

- ▶ 出願期間 2024年12月04日(水)~12月09日(月)
- ▶ 第一次試験(筆記) 2025年2月15日
- ▶ 第二次試験(口述) 2025年2月15日

修士課程学費 (年額、単位:円)

学年	入学金	授業料	実験 実習費	教育 充実費	諸会費※	年間合計
1	200,000	570,000	-	80,000	3,000	853,000
2	-	570,000	-	80,000	3,000	653,000

※本学出身者は、入学金が免除されます。
※諸会費は毎年度の見直しにより、変更となる可能性があります。
※この学費は、2024年度のものであります。

博士課程学費 (年額、単位:円)

学年	入学金	授業料	実験 実習費	教育 充実費	諸会費※	年間合計
1	200,000	400,000	-	60,000	3,000	663,000
2	-	400,000	-	60,000	3,000	463,000
3	-	400,000	-	60,000	3,000	463,000

※本学出身者は、入学金が免除されます。
※諸会費は毎年度の見直しにより、変更となる可能性があります。
※この学費は、2024年度のものであります。

教育訓練給付制度(一般教育訓練給付)

経営学専攻(夜間)は「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。修了後にハローワークに申請することで、雇用保険の被保険期間に応じて教育訓練給付金(上限10万円)が支給されます。

奨学金、研究助成等について

奨学金・研究助成等詳細は、
大学院ウェブサイトへ

<https://www.hosei.ac.jp/gs/gakuhi/>



法政ビジネススクールについては、
以下ウェブサイトでも入試情報の他
様々な情報を発信しております。

<http://hbs.ws.hosei.ac.jp>



法政ビジネススクールは
利便性の良い市ヶ谷キャンパスで
授業が実施されています。

法政大学大学院へのアクセス

- 【JR線】
総武線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 【地下鉄線】
都営新宿線:市ヶ谷駅下車徒歩10分
東京メトロ有楽町線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
東京メトロ東西線:飯田橋駅下車徒歩10分
東京メトロ南北線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
都営大江戸線:飯田橋駅下車徒歩10分

法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務部 (法政大学大学院棟1階) 〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2

☎ 03-5228-0551 ☎ 03-5228-0555 ✉ i.hgs@ml.hosei.ac.jp

🌐 法政大学大学院 <https://www.hosei.ac.jp/gs/> 法政ビジネススクール <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>